

# Ship 船舶



グループ会社との連携強化と、生産体制の変革により、利益を生み出していきます。

取締役 常務執行役員 / 船舶・艦艇事業本部長

古賀 哲郎

## 事業環境と実績

海運市況は、ここ数年間の新造船の大量竣工によって依然として余剰船腹を抱えており、特にドライバルク部門においては用船料の歴史的に低い水準が続く状況下、引き合いに至る案件はごく僅かでした。2017年の年初以来、用船料は回復基調を示し始めていますが、新造船価は未だ満足のいくレベルではなく、本格的な回復にはもう少し時間がかかると見られます。一方、比較的堅調であった原油タンカーおよび液化石油ガス(LPG)船部門においても、発注の進行にともない、市場では船腹過剰感が囁かれはじめています。今後は、高齢船や高燃費船のスクラップによる余剰船腹の減少に加えて、新興国の成長持続によるマーケットの回復、海上荷動きの増加が期待される所です。

このような状況にあって、当社は省エネ・環境対応技術を取り入れた新型ばら積み貨物運搬船や、大型原油タンカー(VLCC)を逐次開発・市場投入し、2013年11月に省エネ船の1番船を引き渡して

以来、56,000重量トン型・60,000重量トン型・66,000重量トン型・182,000重量トン型の各種省エネ型ばら積み貨物運搬船の竣工引き渡しは累計50隻を数えるに至りました。

厳しい受注環境下ではありますが、今後も省エネ船の先行ヤードとしての強みを活かし、採算改善を図りながら選別的な受注を進めていくとともに、船主のニーズを喚起するガス燃料船などの新しい船型の開発に尽力していきます。

受注高は、官公庁船などを受注しましたが、海運市況低迷で商船受注が振るわず、前連結会計年度と比べ413億37百万円減少(△37.9%)の677億12百万円となりました。売上高は、ほぼ前連結会計年度並みの1,266億90百万円となりました。営業損益は、海洋支援船の損失影響が続き、低船価船の減少、原価改善などにより前連結会計年度より89億24百万円改善したものの、97億53百万円の損失となりました。



## Our Action 中期経営計画に基づく「変革」への取り組み

### Topics 中距離輸送向け液化天然ガス(LNG)運搬船の開発

#### ●8万m<sup>3</sup>型LNG船 ユーラシア・フレックスを開発

天然ガス輸送マーケットにおいて、ハブとなるターミナル港から設備の小さな港への輸送需要が拡大されることが想定されています。当社はこうしたトレードに着目し、2017年、8万m<sup>3</sup>型LNG船を開発しました。地中海やアジア域内の中距離輸送に対応した汎用性船型として「ユーラシア・フレックス」と名付け、具体的な商談を進めています。

新船型はモス型球形タンク3基を搭載し、主機関に原油・ガスの2元燃料機関「ME-GI」を搭載します。さまざまな港湾に入港できる汎用性が求められることから、全長を215mとして汎用性を高めた船型としたほか、オペレーションコストなどの低減にも努めています。伝統的な大型LNG船とは技術やビジネス形態、キープレーヤーなどが全く異なる、スモールスケールLNG市場において、グループ連携を進め存在価値を高めていきます。



8万m<sup>3</sup>型LNG船「ユーラシア・フレックス」

### Topics 浮体式海洋石油・ガス生産貯蔵積出設備(FPSO)プロジェクトにおける共通プラットフォームの普及を加速

#### ●次世代FPSO用船体「noah-FPSO Hull」の設計基本承認(AIP)をフランス船級協会から取得

FPSO用船体「noah-FPSO Hull」の設計基本承認(AIP)をフランス船級協会(BV)より取得しました。このAIP取得はアメリカ船級協会に続くもので、「noah-FPSO Hull」の信頼性、実現性の高さが更に証明されました。

「noah-FPSO Hull」は、船体に石油・ガス生産設備を合わせるのではなく、生産設備(トップサイド)に応じた船体を柔軟に計画することが可能な画期的なFPSO用船体です。今後活発化することが期待されるFPSO市場において、「noah-FPSO Hull」を共通のプラットフォームとすべく普及に力を注いでいきます。



次世代FPSO用船体「noah-FPSO Hull」

### Topics 官公庁向け船舶の建造

- 潜水艦救難艦「ちよだ」命名・進水式を挙
- 海上保安庁向け1,000トン型巡視船「よなくに」引き渡し
- 長崎大学向け漁業練習船を受注

2016年10月に防衛省より受注した潜水艦救難艦の命名・進水式を実施し、また11月には海上保安庁向け巡視船を引き渡しました。当社は、防衛省向け艦艇は30隻、および海上保安庁向け巡視船では29隻の竣工実績があります。今後も防衛省や海上保安庁向け船舶の建造を通じ、日本の海を守る活動に貢献していきます。



潜水艦救難艦「ちよだ」命名・進水式